

「模擬国連会議で学ぶ問題解決法」 シラバス v1.1

基礎情報

科目名：全学自由研究ゼミナール／高度教養特殊演習「模擬国連会議で学ぶ問題解決法」

時期：A セメスター 火曜日2 限（10 時 25 分～12 時 10 分）

場所：駒場キャンパス 17 号館 KALS

学年：1～4 年生 単位：2

教員：中村長史 @kals.c.u-tokyo.ac.jp

概要

国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともあります。履修者の皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしいと考えています。

そこで、この授業では、「模擬国連会議（Model United Nations）」というアクティブラーニングの手法を用いて、国際問題の解決法を考えます。多様な利害・価値観に配慮することの重要性を理解するには体感してみることが早道ですが、模擬国連会議では、一人一人が米政府代表や中国政府代表などの担当国になりきって国際問題について話し合います。立場を固定されている点ではディベートと同様です。しかし、相手を論破することで勝利を目指すディベートと異なり、模擬国連会議では合意形成が目的であるため相手の利害・価値観を尊重したうえでの妥協が重要になります。この点を重視し、授業内では対立の激しい議題・担当国を設定して、ロールプレイ・シミュレーションに取り組みます。

目的

本講義で学んだ概念と事例を使いこなして、現在の世界における問題の構図や原因、解決法を自分の頭で考えられるようになる。

到達目標

- ① 国際問題の構造や原因を説明できる【中間レポートで評価】
- ② 国際問題をめぐる多様な立場（利害・価値観）を説明できる【中間レポートで評価】
- ③ 国際問題の解決における妥協の重要性を説明できる【中間レポートで評価】
- ④ 国連の資料を自ら調べて国際問題の分析に用いることができる【期末レポートで評価】
- ⑤ 国際問題の解決策について、選択肢を複数挙げて比較衡量したうえで、妥当と考えられるものを説得的に示すことができる【期末レポートで評価】
- ⑥ 模擬国連会議の教育手法としての特徴を説明できる【期末レポートで評価】

形態

模擬国連会議によるロールプレイとシミュレーションを中心に進めます。国連広報センターの職員の方による資料検索実習や、外交・報道等の現場で活躍中の模擬国連会議経験者によるゲスト講義を挿む可能性があります。

構成

【第1部：模擬国連会議から学べること】

第1回（9/24）ガイダンスー模擬国連会議という手法の特徴

【第2-1部：シリアの人道危機を考える】

第2回（10/1）議題の概説と担当国決め

第3回（10/8）模擬国連会議（シリア）①

第4回（10/15）模擬国連会議（シリア）② & 高橋尚子氏（国連）の講評

第5回（10/29）模擬国連会議（シリア）③

第6回（11/5）模擬国連会議（シリア）④ & 山崎茉莉亜氏（外務省）の講評

第7回（11/12）模擬国連会議（シリア）のふりかえり

【第2-2部：イラク戦争を考える】

第8回（11/19）議題の概説と担当国決め

第9回（11/26）模擬国連会議（イラク）①

第10回（12/3）模擬国連会議（イラク）②

第11回（12/10）模擬国連会議（イラク）③ & 梁田真樹子氏（読売新聞）の講評

第12回（12/17）模擬国連会議（イラク）のふりかえり

【第3部：模擬国連会議から学べること】

第13回（1/7）総括

*次頁のグラフィックシラバスも参照

授業外学習

- ・ 模擬国連会議における議題や担当国のリサーチ
- ・ 模擬国連会議における発言内容や会議行動の検討

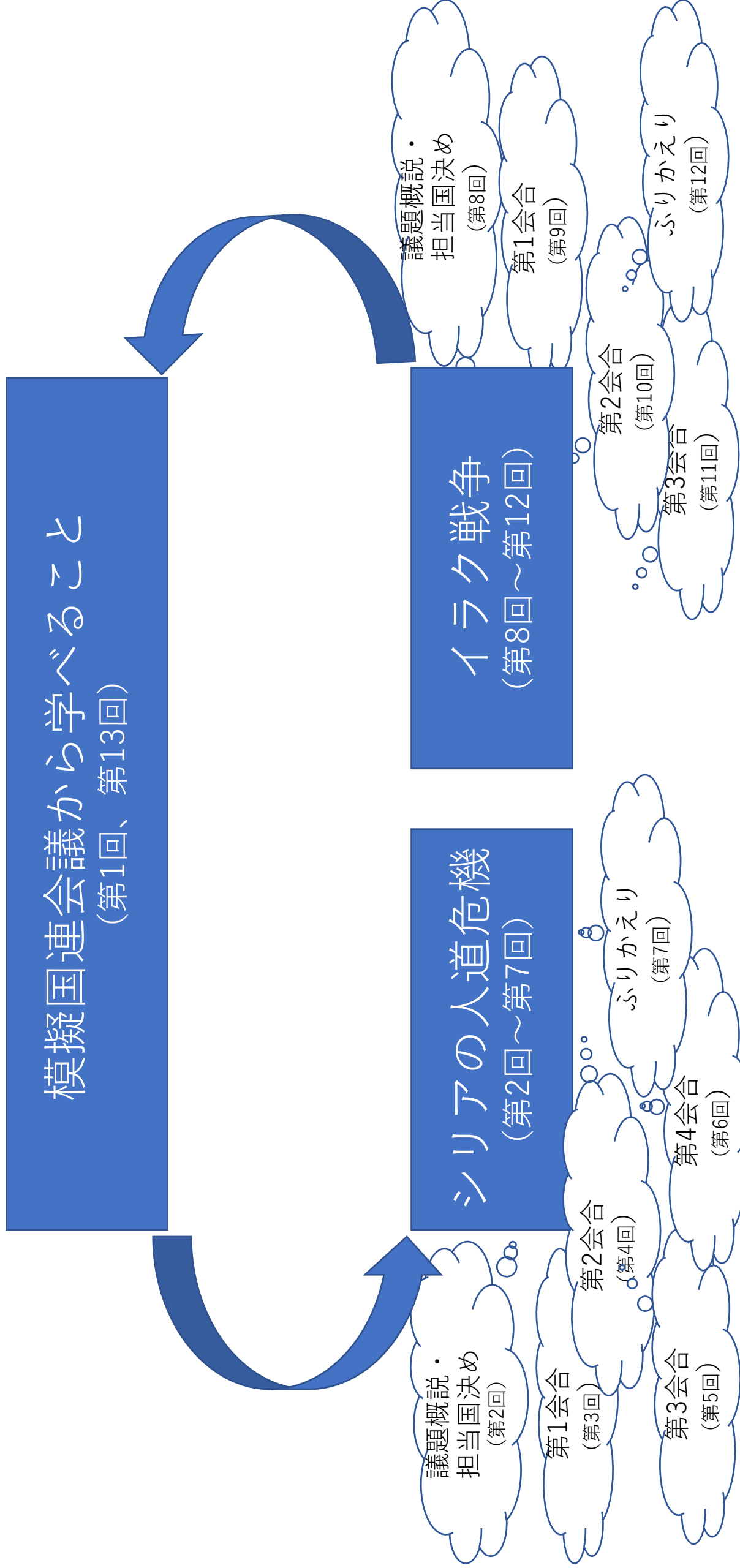
成績評価

期末レポート（50%）：〆切 1/14

第1回中間レポート（25%）：〆切 11/19

第2回中間レポート（25%）：〆切 12/24

図 授業の構造



教科書

なし

参考書

随時伝えます

ルール

「学びに集中できる雰囲気づくり」のため、以下のルールを設けます。

- ① 提出期限を遅れての課題提出は、いかなる理由であれ、受け付けません。
- ② 配布物の予備は保管しないので、欠席した場合は、他の受講者から借りてください。
- ③ 講義中の飲食は原則禁止します。体調によりやむを得ない場合は認めますが、机上には飲食物を置かないようにしましょう。
- ④ 講義中の私語や通話は厳禁です。
- ⑤ レポートについて酷似した答案を発見した場合は、いずれも 0 点とします。

履修者の皆様へ

授業に出席し、毎回出される教員からの問い掛けについて考えることを積み重ねていけば、レポートが自ずと完成するような授業の仕組みになっています。一方、出席しない場合はもちろん、漫然と出席してはレポートで苦しむこととなり、単位取得が危うくなってしまいます。模擬国連会議のロールプレイ・シミュレーションを楽しみながら、国際問題の構造・原因・解決法について丹念に調べ深く考え、仲間と意見交換を重ねるような、能動的学習を目指しましょう。

【模擬国連経験者の方々へ】

教員（中村）は大学時代に模擬国連会議のサークルに毎週参加し、全国大会の運営や高校への普及活動などにも携わっていました。そこから得られたものの大きさを研究者・教育者になって改めて実感し、この度、授業で全面的に扱うことにした次第です。模擬国連会議のスタイルや重視される点は国や校種によって違いがありますし、この授業では上記の到達目標を意識して進めるため、皆さんの経験してきたものと違う面もあるかもしれませんが、是非「大学の授業での模擬国連」で一緒に学んでいければと思います。

【模擬国連未経験者の方々へ】

未経験でも、まったく問題ありません。上述のように、特定の到達目標に基づいたスタイルで行ないますので、ある意味、全員初体験となります。教員が従来の模擬国連会議から学んだことに加え、新たな教育効果の可能性についても一緒に模索していきたいと思います。少しでも関心を持った方は、まずは是非ガイダンスにお越しください。

Policy Paper I ～「イイタイコト」を見つけるために～

Country: _____

Name: _____

1 【内政】

(1) あなたの担当国には、大規模な人権侵害や人道危機が指摘されている事例があるか？

(2) (1)での回答を踏まえ、あなたの担当国は、国際社会の人道危機への関与・介入に対して、一般的にどのような姿勢を示すべきか。

2 【外交政策】

(1) あなたの担当国は、これまでのシリア関連の会議において、どのような態度をとってきたか？

(2) あなたの担当国は、これまでのシリア以外の人道危機関連の会議において、どのような態度をとってきたか？

(3) (1) (2) での回答を踏まえ、今回の会議でどのように取り組めば、過去の政策との継続性が得られるだろうか？

(4) 今回の会議で外交政策の変更を行う蓋然性はあるか？あるとすれば、どのような変更か？

3 【イイタイコト】

(1) **1**・**2**を踏まえ、あなたの担当国の主張が幾つかみえてきたと思われるが、それらの優先順位はどんなものか？

--

(2) あなたの担当国のボトムライン（交渉の際にこれ以上は譲歩出来ないという線）はどこか？

--

Policy Paper II ～「イイタイコト」を実現するために～

Country: _____

Name: _____

Policy Paper I において、それぞれ「イイタイコト」が見つかったことと思われます。次に考えるべきは、その「イイタイコト」をどうやって会議の中で実現していくかですね。その手段として、「決議案 (Draft Resolution: DR)」、「公式発言」、「議論」、「交渉」と様々な場が考えられますが、それぞれの手段の特性を活かせる方法を考えてみてください。

なお、本ペーパーにおける「議論」とは「理屈を通すことで解決 (コントロール) できる」ものを意味し、「交渉」とは「理屈を通すことだけでは解決 (コントロール) できない」ものを意味することとします。

1 【DR】

(1) あなたの担当国は、DRを書くとき周囲から予想される国であるか？また、今回の会議において、実際どうするつもりか？

--

(2) あなたの担当国がDRを書く際に強調する点は何か？DRを書かない場合は、どのような文言であれば理想的か？

--

(3) あなたの担当国がDRを書く/読み込む際に注意する点(表現)はあるか?あるとすれば、それは何か?

2 【公式発言】

(1) DRでは表しにくい公式発言では表明しやすいことはあるか?あるとすれば、それは何か?

(2) あなたの担当国が公式発言において強調する点は何か?

(3) あなたの担当国が公式発言をする/聴く際に注意する点(表現)はあるか?あるとすれば、それは何か?

3 【議論】

（１）あなたの担当国と議論になりそうな国（相手）はどんな国か？

（２）（１）での回答を踏まえ、相手国の主張に反論する「理屈付け」は何か？

（３）（１）での回答を踏まえ、あなたの主張への相手国からの反論に耐える「理屈付け」は何か？

4 【交渉】

（１）交渉による解決を目指す際に、**barter**（取引材料）となるものはあるか？あるとすれば、それは何か？

(2) 交渉には、二国間（バイ）のものと多国間（マルチ）のものがあるが、それらをどのように使い分ければよいだろうか？

United Nations, Security Council

Agenda Item: Iraq-Kuwait

Sponsor: France

安全保障理事会は、

そのすべての関連決議、特に 1990 年 8 月 6 日の決議 661 (1990)、1990 年 11 月 29 日の決議 678 (1990)、1991 年 3 月 2 日の決議 686 (1991)、1991 年 4 月 3 日の決議 687 (1991)、1991 年 4 月 5 日の決議 688 (1991)、1991 年 8 月 15 日の決議 707 (1991)、1991 年 10 月 11 日の決議 715 (1991)、1995 年 4 月 14 日の決議 986 (1995)、1999 年 12 月 17 日の決議 1284 (1999) および 2002 年 11 月 8 日の決議 1441 (2002)、ならびに、安保理議長のすべての関連声明を想起し、

また、その決議 687 (1991) が、同地域における国際の平和と安全を回復するというその明示の目標を達成するために必要なステップとして、イラクに義務を課していることを想起し、

さらに、それらすべての関連決議が、国連憲章に定められた「平和に対する脅威」に適切な対処をするというミッションを与えられた安保理の、国際社会に期待される役割を果たすためだけに採択されたことを想起し、イラク政府に決議の遵守及び実施における全面協力を求めたものであることを想起し、

決議 1441(2002)が、同国当局に義務を課し、その違反を継続した場合には深刻な結果に直面にするであろうということを繰り返し警告したことを想起し、その義務は依然として同地域の平和と安全に不可欠であって遵守されなければならないことを想起し、

決議 1441(2002)に準じて提出した申告書が、安保理の求める水準に達しておらず、同国当局が義務違反状態にあることを遺憾とし、

さらに、決議 687(1991)をはじめとする関連決議が、同国当局に対して義務を課しその遵守を再三要求したにもかかわらず、12 年経った現在でも、国連調査官および査察官に対する、即時、無条件かつ無制限のアクセスが提供されておらず、大量破壊兵器、および、その製造、保管施設についての正確、全面的、最終的かつ完全な開示が行われなかったなど、イラク当局の協力が不十分であることを遺憾とし、

一方で、決議 1441(2002)に基づいた UNMOVIC と IAEA の査察が、同国当局の協力により進められていることを考慮し、イラク当局が安保理決議によって定められた義務を適切に履行することが、依然として重要であると判断し、

国連憲章に基づいて行動し、

1. イラク当局の義務違反を断定するために、より十分な査察が必要であることを確認し、また、専門家による調査を順調に進めるために彼らの要請に安保理が応じる必要があると判断して、UNMOVIC および IAEA の各長は 2003 年 3 月 10 日までに、イラクの武装解除のために取るべき行動の優先事項を、優先順位をつけて安保理に報告することを決定する。
2. 安保理決議 1284 を履行することが重要であると判断し、UNMOVIC は上記決議に定める、査察の中期計画を 2003 年 3 月 31 日までに安保理へ提出することを決定する。
3. 国連憲章の想定する使命を果たすため、安保理が一体となってイラクの武装解除に取り組むことが重要であると確認し、上記 1, 2 にある優先事項と中期計画がそれぞれ提出されたのち、7 日間以内に安保理会合を開き、イラク当局に課す義務とその違反時における対応について、あらゆる手段を視野に入れて協議をし、合意することを決定する。
4. 上記 3 において、以下の事項を重視することを確認する。
 - a. 決議 1441 は重要な論点を含んでおり、とくにイラク当局に要請される義務の内容をより具体化することが安保理の使命を果たすうえで重要になること。
 - b. 義務違反があったと判断される際は、安保理の合意に基づいて定められた基準に従って行動することを、あらゆる手段による対応も考慮に入れた形で協議を行うこと。
 - c. 安保理はいかなる決定をする際にも、人命の保護と平和の維持に最大限の尊重をもって行うべきであること。

- d. 国連憲章の趣旨に従って、「平和に対する脅威の認定及びそれに対する措置」は安保理の判断によってしかなされないこと。
 - e. 査察の継続を行う場合は、専門家の意見を十分考慮したうえで、安保理が責任をもって計画を主導し、国際社会をけん引すべきであること。
 - f. いかなる対応をした場合でも、それによって第3国やその国民に不利益を被らせないように、最大限の配慮をすべきこと。
5. イラク当局及び国際社会の予見可能性を確保することが重要だと確認し、あらゆる国は2003年3月31日まで、イラクに対する追加の制裁及び行動は起こさないことを決定する。
6. この決議は今後の安保理の行動を方向付ける意味で、関係各国にとって重要であることを確認し、国連総長が採択後速やかにイラク当局及び国連加盟国の各政府に通達することを要請する。
7. 本決議の履行を評価しそして必要に応じて更なる措置を考慮する安保理の意図を表明する。
8. この問題に引き続き取り組むことを決定する。

「模擬国連会議で学ぶ問題解決法」 中間レポート①

べ切：2019 年 11 月 18 日（月）23 時 59 分

【問題（50 点満点）】

シリア問題とは何かを定義したうえで、問題の原因を指摘し、解決策を挙げてください。
解答に際しては、以下の「評価に用いるルーブリック」を踏まえて、一個人の立場から
1200 字以内でお願いします。

評価に用いるルーブリック

		理想的	標準的	要改善
内容	問題の定義	多様な立場 （利害・価値観）を 意識しつつ、 問題が明確に 定義されている （10 点）	問題が明確に 定義されている （5 点）	問題が明確に 定義されていない （0 点）
	問題の原因	多様な立場 （利害・価値観）を 意識しつつ、 原因が適切に 指摘されている （15 点）	原因が適切に 指摘されている （8 点）	原因が適切に 指摘されていない （0 点）
	解決策	異なる主張に 配慮しつつ、 解決策が適切に 指摘されている （15 点）	解決策が適切に 指摘されている （8 点）	解決策が適切に 指摘されていない （0 点）
形式	構成			構成が不明確であり 読者を混乱させる （0 点）
	誤字	誤字がない （5 点）	誤字が 2 ヶ所以下 （3 点）	誤字が 3 ヶ所以上 （0 点）

*いかなる立場をとろうとも、そのことで評価に有利になったり不利になったりすることはありません。議論が論理的に組み立てられているかを重視します。

答案の例

○シリア問題とは何か

シリア問題とは、シリアの問題が「世界」の問題に変身する過程を指す言葉である。

アラブの春を契機としてシリアにも「民主化」がもたらされようとしていた時に「シリア問題」は始まったと、筆者は考える。すなわち、その後の暴力や周辺国の介入、超大国の介入、大量の難民といった現象は、その不随問題に過ぎないのであって、「民主主義」という一種の政治形態が普遍的絶対的な正義であるという観念自体が、「シリア問題」の根幹をなしていると見ているのである。ただし、シリア紛争の初期にはアサド政権も民主的な憲法へ改正することを示唆しており、その時点で民主化が完了する可能性もあったことから、民主化の方法を問題視したほうがよさそうだ。

○シリア問題の原因

シリアの問題が「世界」の問題になったのには、主に2つ原因がある。

1つ目は、最も主要な原因であるが、暴力と政治制度を一体視したことである。本来、安保理はじめ国際社会が非難すべきは暴力（憲章の言う「平和に対する脅威」）であったが、米英仏の避難対象は専制政治をするアサド政権へと向き、民主主義体制へ移行させること（アサド政権を転覆させること）にまで至ってしまった。これに対しては、アサド政権と深い関係を持つロシアや内政不干渉原則を第一に考える中国からの反感が強く、安保理内に亀裂を走らせてしまった。

2つ目は、より根本的な原因であるが、シリア国内の民主化への準備が不十分であったことが挙げられる。2011年3月・4月当初は数千人数万人規模のデモが発生しており、国民の総意が民主化要求であったように思われたが、民主化による生活の自由を求める国民が、国内紛争によって自宅を追われるという事態が起き、国民に温度差が生まれた。その一枚岩になれない国民と政府の衝突の中で、テロリスト集団の卵が各地に用意されてしまった。

以上のような状況の中、「罪なき国民 vs 暴力的な専制君主」という単純な構造とはならなかったため、大国の利益と思惑が錯綜する形となった。具体的に言えば、米英は民主化推進のため作り出した「アサド＝暴君」という虚像を、自国益を守りたいロシアや中国が「それは虚像だ」と反発することになり、「暴力 vs 安保理」であるべきところがその安保理内で「政府 vs 反政府」構造を再生産してしまったのである。こうしてシリアの問題は「世界」の問題となった。

○シリア問題の解決策

したがって私は、国内紛争解決には外部は人道的支援や暴力への非難を続けるのみであるべきであり、政治的・経済的な干渉は避けるべきだと考える。暴力や非人道的政治が続いたとしても、内的インセンティブにより打開されるのを待つほうが、解決を早める。ただし、これ程までに混沌としたシリア情勢を解決するには、徹底的な軍事介入と強制的な非武装化によって戦闘の停止をするよりほかないのかもしれない。